

唐津—壱岐—対馬—釜山を結ぶ

大トンネル計画

壱岐の地質調査に動く

唐津—壱岐—対馬—釜山地質調査や文献収集に移つていく。

が国際ハイウェイ建設事業 最近九州で日韓トンネル
団の手が進められ、日韓ト が話題となり始めたのは、
ンネル研究会というプロジ 国際ハイウェイ建設事業団
エクトもできている。 が、佐賀県唐津と壱岐・石

この途方もない大計画 田町に事務所を置き、トン
は、毎年開かれていた国際 ネル建設に必要なボーリン
文化財団主催による科学の グによる地質調査や中継駅
統一に関する国際会議の第 となる地点を予想しての用
十回ソウル会議で、同財団 地物色への動きをみせ始め
創設者である文鮮明師によ たからである。

って提唱されたもので、わ 同プロジェクトの中には
が国ではすでに国際ハイウ それぞれ四部会を設けて、
エイ建設準備委員会（梶栗 専門分野で研究が進められ
玄太郎委員長）が発足、松 ているが、この途方もない
下正寿氏（元立教大学総 大計画が実現の可能性があ
長）、西堀栄三郎氏（日本生 るのか、まぼろしの大ト
産性本部長）らを中心に ンネルに終わるのか、い

まのところ未知数。

現在の調査段階でいえる
ことは、壱岐島周辺は地層
が悪い上に、壱岐島の地下
には地下水の豊庫がある
が、これに影響はないか、
青函トンネルの四倍もある
トンネルをコッコッ掘れば
五、六十年かかるので、人
工島を作り立坑方式をとり
工区を分けて工事を進める
しかあるまい、との考えが
強いようで、トンネルの経
済効果や国防上の問題、日
韓中国などの政治情勢など
政治、経済、技術のあらゆる
面に関連が出てくる予
想。第二次大戦時に、日韓
を結ぶトンネル計画が話題
にのぼったことがあるが、
あの当時に比べ、技術面だ
けでみると、実現性を秘め
た夢のトンネルともいえ
そうである。